



# 文部科学省の統計教育大学間連携ネットワーク主催のシンポジウム『論より統計！ 社会が求める人材になるために』 10月12日、午後2時から早稲田大学大隈講堂にて開催 ほぼ満席に近い状態！



大隈講堂の大講堂1階の会場は、ほぼ満席に近い状態になり、熱気にあふれました



平成25年10月12日（土）午後2時から地下鉄東西線の早稲田大学駅近くにある早稲田大学大隈記念講堂大講堂で、統計教育大学間連携ネットワークが主催する『論より統計！ 社会が求める人材になるために』シンポジウムを開催しました。

統計教育大学間連携ネットワークは、文部科学省大学改革推進等補助金事業「データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」のために設立されたもので、東京大学、大阪大学、総合研究大学院大学、青山学院大学、多摩大学、立教大学、早稲田大学、同志社大学が連携しています。

今回のシンポジウムは応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会など学会が連携、内閣府、総務省、統計関連学会連合が後援して開催しました。

日本統計協会・舟岡専務理事が総合司会を務め、企画を推進した青山学院大学の平澤副学長の開会挨拶、会場提供元・早稲田大学の田中理事の歓迎挨拶の後、早速第1部「企業の持続可能性と人材」をテーマに三菱ケミカルホールディングス小林喜光社長、「社会が求める人材育成と大学教育」をテーマに文部科学省文部科学審議官の板東久美子氏が特別講演を行いました。

第2部は成蹊大学の中西名誉教授の司会で、総務省統計局の會田統計調査部長、大阪大学大学院の狩野教授、三井住友信託銀行の杉田年金コンサルティング部長、「統計は最強の学問である」の著者で統計家の西内氏をパネリストに『統計は社会でどこまで役に立つか？』をテーマにパネルディスカッションが行われ、午後5時半、美添運営委員長長の総括、総合研究大学院大学の田村教授の閉会挨拶で終了しました。



# 『論より統計！ 社会が求める人材になるために』シンポジウム



《総合司会》

シンポジウムは「社会が求める人材」そこで“統計学”の果たす役割をテーマに開催すると説明、日本統計協会・舟岡専務理事の総合司会で始まりました。



《開会挨拶》

青山学院大学の平澤副学長が開会挨拶を行い、この統計教育大学間連携ネットワーク（JINSE）の発足の目的や活動の意義などを紹介しました。



《歓迎挨拶》

会場となった早稲田大学の田中理事が、日本の国勢調査など統計と浅からぬ縁の大隈重信翁を記念する会場での開催を歓迎すると挨拶しました。



《特別講演》三菱ケミカルホールディングスの小林社長



企業の持続可能性を実現するには、個々の学問やビジネスの領域を超え、融合した大きな連携や協同が必要と、今求められるのは「コンセプトクリエイター」と「プロジェクトエンジニアリングスペシャリスト」であると、企業経営の視点から示唆に富む経験談をお話し頂きました。

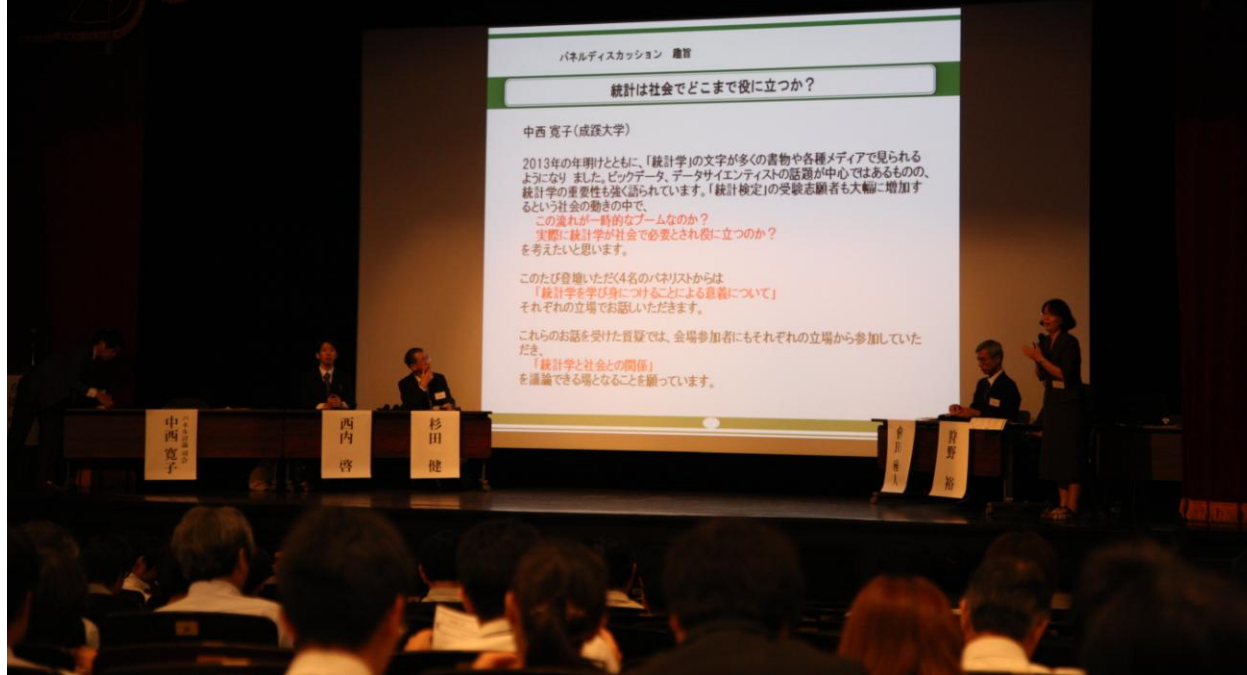


《特別講演》文部科学省・文部科学審議官・板東氏



少子高齢化、グローバル化、高度情報化の進展など激しく変化し、多様化する21世紀に生きるために必要な力とは何か、「社会が求める人材育成と大学教育」をテーマに、これまでの提言を踏まえ、「大学教育の質的転換」についてお話し頂きました。

## パネルディスカッション 『統計は社会にどこまで役に立つか？』



第2部は『統計は社会にどこまで役に立つか？』をテーマに、成蹊大学の中西名誉教授がリーダーを務め、パネルディスカッションが行われました。

最初にパネリストを紹介し、各パネリストがそれぞれ専門的な立場でプレゼンテーションを行いました。

“統計は最強の学問である”の著者で統計家の西内氏、三井住友信託銀行の杉田年金コンサルティング部長、総務省統計局の會田統計調査部長、最後に大阪大学大学院の狩野教授、共に統計を日常の仕事にしているパネリストが独自の“統計論”を披露した後、ディスカッションを行いました。



最初にパネルリーダーを務めた成蹊大学の中西名誉教授、昨今の“統計ブーム”には驚きながらも内心は……。ビッグデータ時代と言われる現代社会にあっては統計を抜きに語ることはできない、統計をブームに終わらせないためにも、統計を理解し、世の中の関心を高めようと力説した後、登壇するパネリストを紹介しました。



リーダーの中西先生、パネルディスカッション前に会場から寄せられた事前質問の量にビックリ。

各パネリストのプレゼンテーション終了後は事前質問に答えてのディスカッションでしたが、パネリストがそれぞれ熱烈的な統計家のため時間を超越した熱弁に胸騒ぎを感じた様子。盛んに時間を守るよう牽制してのディスカッションとなりました。

# 『論より統計！ 社会が求める人材になるために』シンポジウム



「統計は最強の学問である」の著者・西内氏



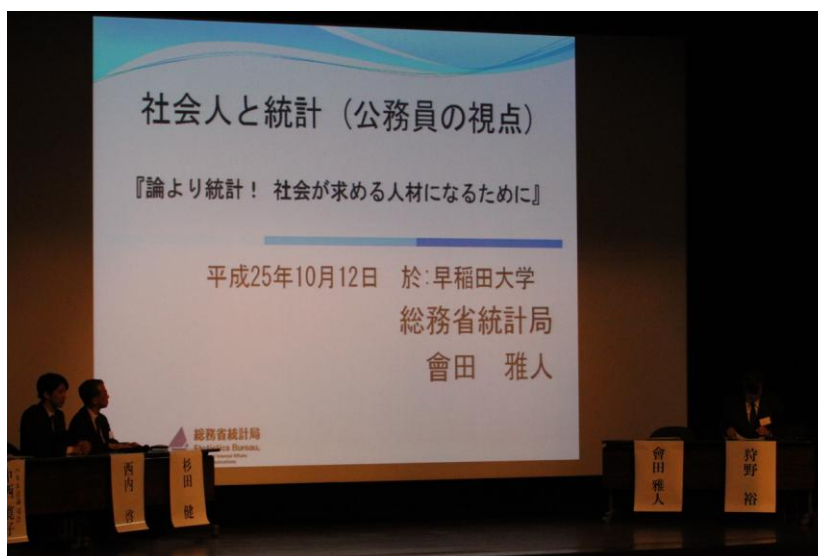
今日の統計ブームの火付け役とも言える統計家の西内氏“統計学は社会で有用か？”を切り口に「なぜ医学部で統計学」、「なぜビジネスで統計学」など次々と切り口を変えながら、統計が不可欠であることを強調しました。



三井住友信託銀行の杉田年金コンサルティング部長



災害や年金などの運用、保障には統計手法を活用している立場から、それをどのように活かしていくか、資産運用リスクの話など、実務に即した統計との関わりについて紹介し、統計への理解が不可欠と強調しました。



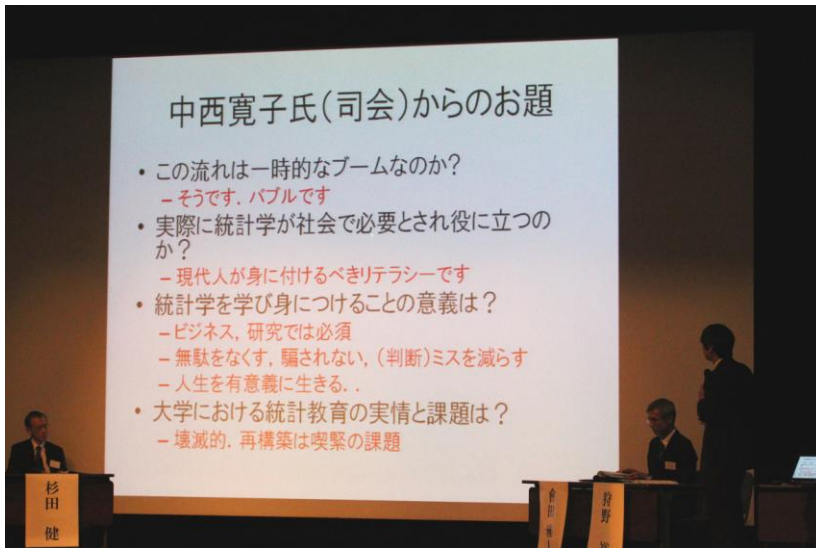
総務省統計局の會田統計調査部長



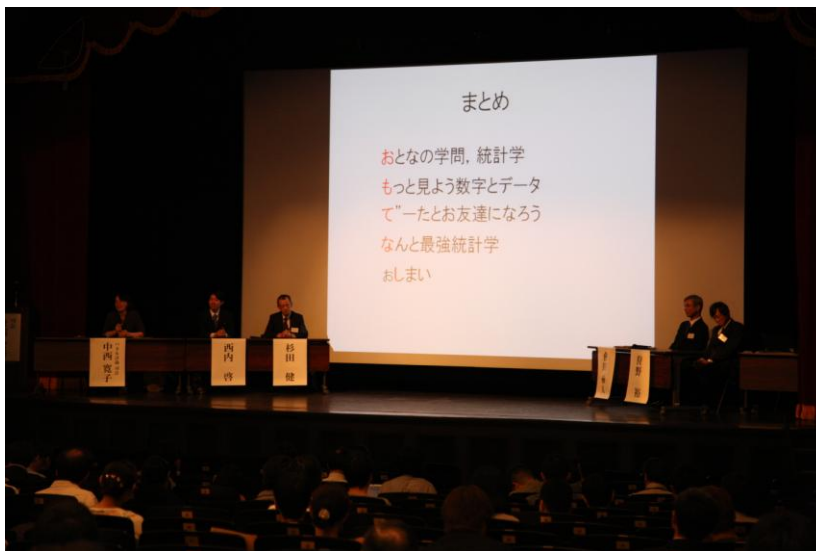
総務省統計局の前身とも言える統計院を設立した大隈重信翁に思いを馳せ、毎年収集している統計データを政策立案に役立てている。同様にそれらデータをビジネスや教育にどのように活用願えるか、大いなる活用に期待を寄せていました。



# 『論より統計！ 社会が求める人材になるために』シンポジウム



最後のプレゼンターは大阪大学大学院の狩野教授



「オモテナシ」の心で最強の“統計学”をと結びました。



狩野先生、最初に「統計ブームは一時的なブームか？」に「そうです。バブルです。」と「“統計学”を学ぶ意義は？」に「ビジネスや研究では必須」と中西リーダーからお願いへの回答から始まり大学では不評と“統計学”への学生の無関心を嘆きました。

課題への取組み能力を高めるため、数学的な感覚、数字へのセンスを身につけさせる努力を続けようと呼びかけました。

パネルディスカッションのまとめとして「おもてなし」を、オ：大人の学問・統計学、モ：もっと見よう数字とデータ、テ：データとお友達になろう、ナ：なんと最強統計学、おしまいと結び、中西リーダーも啞然とする中、ディスカッションは終了しました。



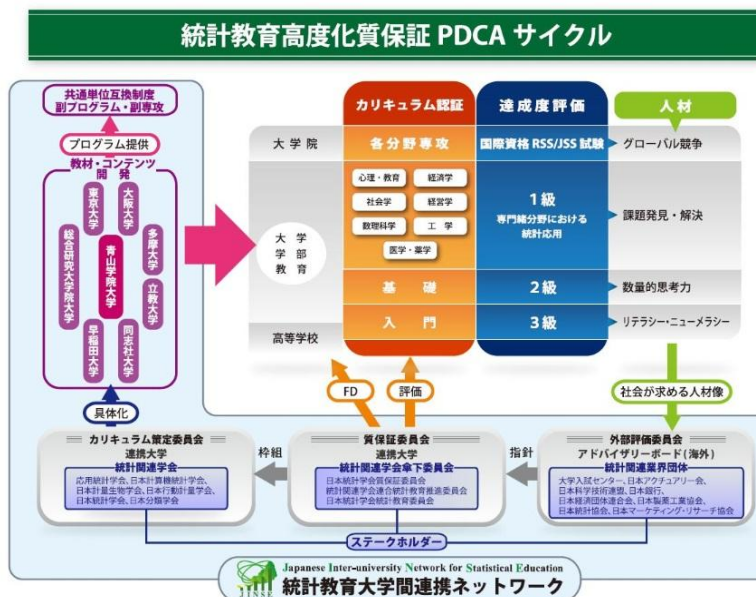
美添運営委員長

パネルディスカッション終了後、シンポジウムを統括して青山学院大学の美添教授が「統計教育大学間連携ネットワークの目指すもの」について紹介しました。



田村教授

最後に総合研究大学院大学の田村教授が閉会挨拶を行い、この日の全ての行事を終了しました。



出典：http://www.jinse.jp/img/pontie.jpeg

